

表現の許容範囲について

プロポーザル方式は、そのプロジェクトにとって最も適切な創造力と技術力そして経験と実績を持つ「設計者(人)」を選定する方式である。したがって、コンペ方式のような最も優れた「設計案」を選ぶものと異なるため、提案はあくまでも文章により作成すること。

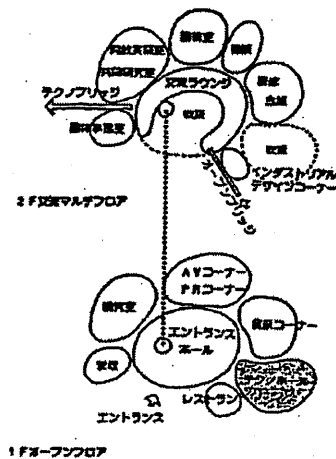
ただし、文章のみでは提案が理解されづらいこともあるため、文章を補完するイラストやイメージ図等の概念図の挿入は認めるが、設計図面、透視図(パース)、鳥瞰図、模型写真等の挿入は認められない。

なお、建物のイメージを表現するために既存の建築物等の写真、イラスト等を使用することは認めるが、この場合引用した建物等の名称を具体的に記載すること。

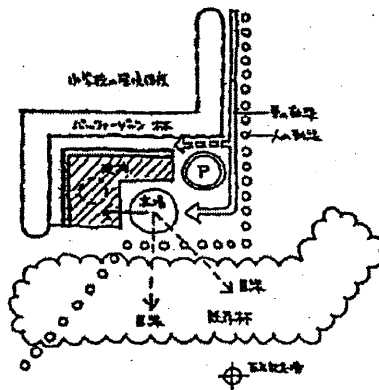
技術提案にあたっては、以下の提案表現例を参考にすること。(出典「プロポーザル方式による設計者選定の進め方」(一般社団法人 公共建築協会))

また、提案表現の制限に抵触する図面等の挿入があった場合は、減点の対象とする場合がある。

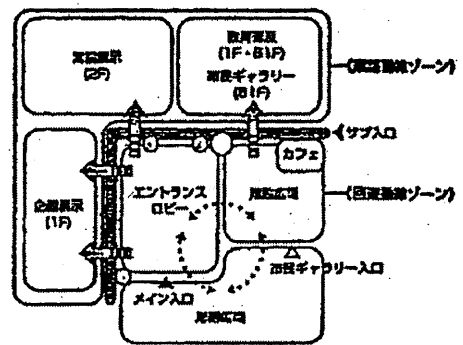
【 プロポーザルで提案可能な表現例 】 (許される表現例及びその理由)



ホール、ラウンジを中心にするという設計の考え方を表現しているものである。



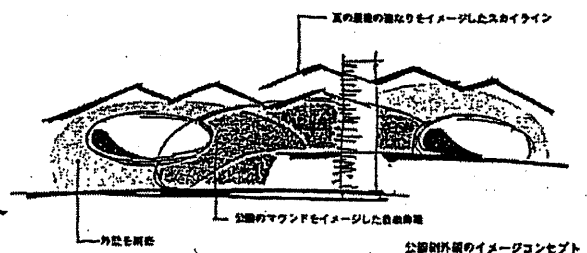
人の動線を説明するときに、それを補うために敷地内の簡単なゾーニングの考え方を表現している。



人の動線を説明するときに、それを補うために建物内の簡単なゾーニングの考え方を表現している。

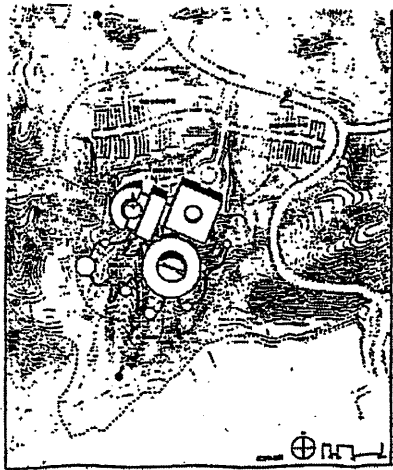


施設と周辺環境との関係をイメージで表現しているものであり、建物の具体的な形状は表現していない。

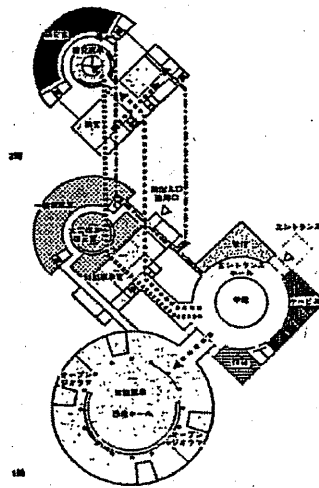


建物のイメージで表現しているものであり、建物の具体的な形状は表現していない。

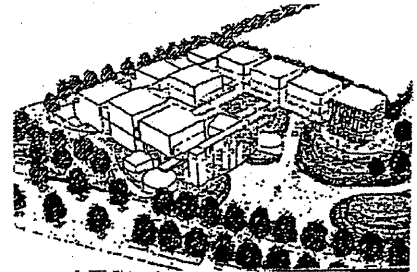
【 プロポーザルで認められない表現例 】（許されない表現例及びその理由）



建物形状が具体的に表現された、
周辺地域も含めた配置図である。



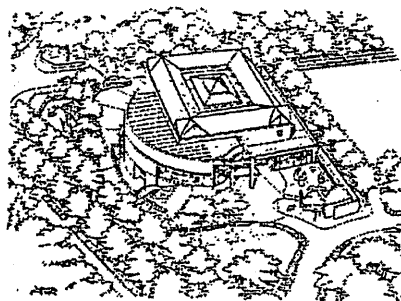
具体的な平面図である。



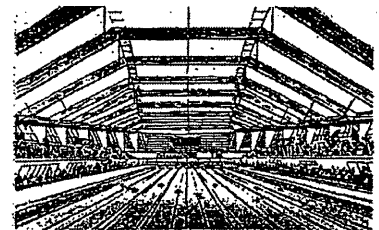
建物の具体的な配置計画やボリューム等が具体的に表現された鳥瞰図である。



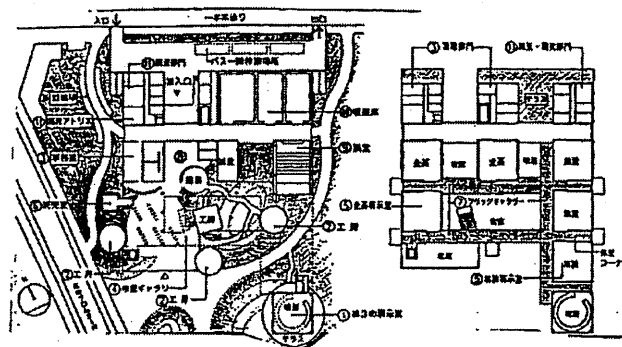
建物の具体的な形状が表現された透
視図である。



外観の形状が具体的に表現された
鳥瞰図である。



内観の透視図である。



一定の尺度のもとで作成された具体的な配置図、
平面図である。